

本書の目的は、多くの OT、特に現場で困っている若手 OT に脳卒中と作業療法の関連を多角的に示すことである。現場で悩んだときの虎の巻的、バイブル的な書となることを望んでいる。このため、筆者の方々には、最新の知識や技術はもとより、これまで実践してきたこと、現在実践していることを中心に、解説していただいている。

脳卒中は、日本の三大生活習慣病の 1 つであり、発病率も高く、全国に 137 万人いるとされている。今後さらに高齢化社会を迎えようとしている実情においては、リハへのニーズはよりいっそう高まる可能性がある。

脳卒中は、身体・高次脳機能障害等の機能構造はもちろんのこと、ADL・IADL、就労や地域活動等の活動や参加、環境的側面や心理社会的問題にも大きく影響する疾患である。そのような疾患であるからこそ幅広い知識と技術をもった OT の活躍が期待されている。

しかし、近年の養成校の増加に伴い若い OT が多くなった現状がある中、質的に十分なサービス提供ができているとは言いがたい。そんな状況においても、医療の進歩に伴う最先端技術等、新しい技術も取り入れていかなければならない現状がある。さらには、「脳卒中ガイドライン 2009」に記されているように、多職種によるチームアプローチでより効果的な治療の展開も期待されている。制度においては、2000 年に回復期リハ病棟が創設され、同時に介護保険制度も開始された。それから現在まで、診療報酬、介護報酬はめまぐるしい改定が続いており、急性期・回復期の医療分野、生活期の介護福祉分野のどのステージにおいても、脳卒中と作業療法は関連性が深いものとなっている。

現場で働く OT は、制度や改定内容を理解したうえで、脳卒中対象者への対応をすることを迫られている。各地域で始まろうとしている地域包括ケアシステムもその 1 つであり、その中での作業療法の活躍も期待される。

本増刊号が読者の皆さまに、何らかのヒントを与え、現場での悩み解決の手助けになれば幸いである。

2014 年 6 月

編者を代表して

船橋市立リハビリテーション病院 池田吉隆